

IEA石油市場レポートの概要（2016年9月13日公表）
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 世界の石油需要の増加は、予想されていたより早いペースで鈍化している。2016年の増加は、130万バレル/日と見込まれる。これは、本年第3四半期のより顕著な落ち込みによって我々の過去の予想よりも10万バレル/日低くなったものである。また、マクロ経済情勢が依然として不透明なことから、2017年の需要増加に向けた動きは、120万バレル/日までさらに弱まるだろう。
2. 8月の世界の石油供給は、非OPEC加盟国の供給減により、30万バレル/日低下した。9,690万バレル/日という世界の供給量は、一年前よりも30万バレル/日低くなっているが、OPEC加盟国による過去最大級の供給量がOPEC非加盟国の急な供給減をおおむね補っている。OPEC非加盟国は、今年見込まれる84万バレル/日の供給減の後、2017年には増加（38万バレル/日）に転じることが予想される。
3. 8月のOPEC加盟国の原油生産量は3,377万バレル/日まで上昇し、中東の生産者が供給量を増加するにつれ、過去最高記録をうかがう状況となっている。クウェートとUAEは過去最高の生産量を記録し、イラクは生産量を引き上げた。サウジアラビアの生産は過去最高に近い水準を維持し、イランは制裁後最も高い水準に達した。OPEC全体での供給は、一年前を93万バレル/日上回った。
4. 石油精製量についての弱気の展望は、我々の2016年予想の下方改訂の中、さらに続くだろう。2016年の精製施設の稼働量の成長は、過去10年で最低にとどまるだろう。
5. 7月のOECD加盟国の在庫は、3,250万バレル増加し、新記録となる31.11億バレルに達した。精製施設の稼働が夏のピークになっても、（8月末の米国での嵐に関連する例外的な取り崩しまでは）原油在庫は下がらなかった。
6. 8月初めに原油価格は回復し、過去4ヶ月で最も低かった42ドル/バレルから、短い期間ではあるが50ドル/バレルを上回る上昇となった。この背景となる夏の需要ピークは、過去2年以上無かったような四半期ごとの強い需要につながることを期待されている。このレポート執筆時点で、ブレント先物価格は48.45ドル/バレル近辺まで下がり、WTIは46.35ドル/バレルとなっている。